湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　専攻科公衆衛生看護学専攻
名　前　大高のぶえ
作成日　2024/8/16

1．教育の責任

湘南医療大学の理念は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」であり、ふれあいグループ統一の理念である。大学はこの理念を基に、保健・医療・福祉・教育のトータルヘルスケアシステムを作り、地域の人々の幸せに役立つスペシャリストを養成することを目的としている。教育部門においては、1）魅力ある学校をつくること、2）学生の成長に貢献する学校をつくること、3）社会に貢献する学校をつくること、以上の3つが期待されている。

【担当科目、担当した内容】

1）地域活動特別演習（必修 2 単位、通年）

・「山手を知る、地域を診る」：専攻科教員、2 専攻合同：8 コマ分
・「知る、伝える、繋がる」：公衆衛生看護専攻教員担当：2 コマ分
・「疫学と歴史からヒトのもつ能力を考える」：2コマ分
・「地域防災の能動的探究」：2 コマ分
・「多職種連携・協働と保健師の専門性」：2コマ分
・「学びの統合、まとめ」：9 コマ分

2）公衆衛生看護活動論Ⅰ（必修 2 単位、通年）

・「高齢者保健分野」：3 コマ分
・「成人保健分野」：2 コマ分

3）地域アセスメント演習（必修 3 単位、通年）

・「地域包括ケアの動向」：1 コマ分
・「地域包括ケアにおける保健師活動」：1 コマ分
・地域包括支援センター担当地域の地域アセスメント（小地域）：2コマ
・その他、地区踏査実施

4）ヘルスプロモーション演習（必修 3 単位、通年）

・「高齢者保健分野」：5 コマ分
・「成人保健分野」：6 コマ分

5）公衆衛生看護マネジメント演習（必修 3 単位、通年）

・「高齢者保健分野」：6 コマ分
・「成人保健分野」：3 コマ分

6）公衆衛生看護学研究（必修 2 単位、通年）

・計画書作成、調査、分析、論文作成：学生 5 名を担当

7）公衆衛生看護学実習Ⅰ（必修 2 単位、後期）
・市町村保健センター、保健所等での実習

8）公衆衛生看護学実習Ⅱ（必修 2 単位、通年）
・産業保健、地域包括支援センター、学校保健の実習

2. 私の理念・目的

1） 私の理念

(1) 専門職としてのアイデンティティを持ち、専門職として求められる役割を果たせる人材を育成すること

(2) 困難なことがあっても発展的に考え、自己成長し続けることができる学生を育成すること

(3) 予測のつかない新しい時代に対応していくために、協調性、柔軟性、視野の広がりがある学生を育成すること

2）理念をもつに至った背景

公衆衛生看護活動は、その時代の健康課題に対応してアプローチを変えてきた。近年においては、少子高齢化が一層進む中で健康課題が複雑化しており、保健師が期待される役割もより高度になってきているといえる。これからの学生は、予測がつかない新しい時代で活躍を期待されることになる。このような未来が待ち受ける学生へ、以下の3つを大事に考え、教育携わりたいという思いがある。

3. 教育の方法・戦略

1）講義の展開

基本的な知識の習得を目的とする授業では、講義形式を採用している。講義の中で、学生の主体的な学修活動を意図して、学生同士の学びの共有やディスカッションの時間を設けている。

2）演習の展開

演習に必要な知識は、事前に習得できるように授業を組み立てているが、演習の前は、再度知識の確認を行っている。グループワークを主としており、演習のマネジメントから取り組めるように組み立ている。

3）実習

実習は行政、産業、地域包括支援センター、学校、地域の活動の 5 種類がある。それぞれ

に公衆衛生看護学としての特徴的な視点、共通する視点がある。それらを意識して、学生が体験と知識の統合ができるよう目指している。

4）研究
該当科目：公衆衛生看護学研究（必修 2 単位、通年）
研究を行うにあたっては、文献検討から自分の思いをアカデミックに整理し、可視化する必要がある。この能力は、実践家として活躍する上で必要な能力である。研究活動を通し、倫理的思考、理論的思考を培えるよう意識している。学生とコミュニケーションをとり、「思いや感じたこと」を研究テーマに設定し、丁寧に分析を行っていく。

4. 学習成果
1）講義による知識の修得
・重点内容の理解が不十分であったため、次年度以降の課題としている。
・学生が、実習に必要な知識に基づいて考察ができていた。

2）演習による技術の修得
・保健指導の演習は、産業保健実習でも実践させていただき、演習と実践が結び付くものになった。保健師の指導意図を学修する目的で思考プロセスを明確化するために、看護アセスメントから導いた問題を対象者観、教材観、指導観で考えることができた。
・PDCA サイクルに基づく事業展開には課題がある。次年度以降の検討事項である。

3）実習による知識の統合
・学生が、多職種や他機関との連携や人と人をつなぐという実際の活動から、それに必要な要素を考察できていた。また、保健師の役割や必要な技術についても考察できており、一部の学生においては、自分の目指したい保健師像を描くことができていた。
・実習における学修目標を照らし合わせて、学びの進捗を確認しながら実習指導を行っていく。

4）研究活動による倫理的思考、理論的思考の修得
・興味関心や気になっていることから研究テーマを設定できた。
・倫理審査委員会に計画書を提出するために、研究意義や研究に必要な手続き等についてまとめ、理解することができた。
・新たな知見を得るために、学会に参加し深めることができた。

5. 改善のための努力
1）知識の効果的な習得について
・全国保健師教育機関協議会主催のラダーⅠ研修に参加し、教育学総論、授業展開、授業

計画の立案について学ぶ機会をいただいた。今後、自身が行う講義の授業計画を立案、実施、評価して、自身の教育方法のブラッシュアップを行うことに努めていく。

2）演習における効果的な思考や技術の習得について
・領域内で、他職位教員に相談しながら助言、指導を受けながら、授業を計画し実施していく。
・学会で情報収集を行い、新たな知見を取り入れながら、自己啓発に取り組む。
・既存の学修項目や文献等を参考にし、目標設定や評価を行いながら客観的評価を行っていく。

6．今後の目標
1）長期目標
地域で活動することの面白さに気づき、主体的に学修に取り組むことができること
2）短期目標
学生が達成感や困難感を言語化できること
学生が感じたことの背景を学生自身で考え、理解できること

公衆衛生看護は、社会のニーズをくみ取り、新たな課題に直面しながら、アセスメントをしながら課題に対して、多職種や関係機関、住民、対象者と協働で行う活動である。そのため、学生が今後発展的な思考で実践家として活動していくために、率直な感想や思いを肯定し、そこから学生が主体的に学ぶ姿勢を育てていくことを目標にする。